様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24 年　5 月　15 日現在

機関番号：３２６８６
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2010～2011
課題番号：22830091
研究課題名（和文）　グローバル・ジャスティス運動が国際規範形成に与えている影響に関する研究
研究課題名（英文）　Study of the Global Justice Movement and its impact on the formation of international norms
研究代表者
五野井　郁夫　（GONOI IKUO）
立教大学・法学部・助教
研究者番号：50586310

研究成果の概要（和文）：
本研究の成果は、グローバル・ジャスティス運動が世界政治に与えている影響を明らかにしたことである。本研究は、グローバル市民社会からなるグローバル・ジャスティス運動による国際規範形成の影響力と性質を明らかにすべく、NGO、宗教組織、類縁集団ベースの市民運動から分析し、それらが国際規範形成に与えている影響について「社会運動のクラウド化」という概念を提示することで､今日のグローバル･ジャスティス運動研究で最先端の知見を見出した。

研究成果の概要（英文）：
The result of my research discovered the Global Civil Society based Global justice movement in recent years that is asking for social justice have played important role in world politics, especially on the influence of the international norm formation. By studying Global justice movement which this research becomes from a global civil society, and various character I was able to carry out to analyze from the both sides of the religion organization centering not only on NGO but on a Christianity community, and the civic organization of the "affinity group" based people power like Occupy Wall Street, by showing the concept of "Clouding of a social movement" and the "social movement 2.0" about the Influence which I have had on international norm formation, these global civil societies found out new knowledge to Global justice movement research in these days.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	1,240,000	372,000	1,612,000
２０１１年度	1,140,000	342,000	1,482,000
年度			
年度			
年度			
総　計	2,380,000	714,000	3,094,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：国際関係論
キーワード：国際関係論、グローバル・ジャスティス運動、ヴァチカン、直接民主主義、社会運動のクラウド化、社会運動 2.0

１．研究開始当初の背景

一国内政治においては民主主義の形骸化として「ポスト・デモクラシー」状況(Crouch, 2004=クラウチ，2008年)が指摘されるなか、1999年のシアトルにおける反WTO闘争を象徴的な転換点として、世界社会フォーラムなど世界中で顕在化しつつある近年のグローバル・ジャスティス運動という、国境を越えた直接民主主義的で市民的な機運が高まっている(N. Klein, 2002=クライン, 2009年; 遠藤誠治, 2006年; R. Reitan, 2007; J. Hadden and S. Tarrow, 2007; 土佐弘之, 2007年)。本研究では、グローバル市民社会を主体としたグローバル・ジャスティス運動が、国際社会のなかの各国家の選好に影響を与えることで国際規範形成が促され、それによって各国の国益が再定義され国際協調が可能になる過程を明らにすることを試みた。

これまでの研究のなかでグローバル市民社会自体が政策担当者-NGO間関係のみに回収されない、多様なアクター間の相互作用から成立していることを発見する予定であった。

実際のグローバル・ジャスティス運動は必ずしも条約締結を目指すわけではない。むしろ現実には、法典化を伴わない非条約合意や、条約合意自体を阻止する規範形成として立ち現れることもあわせて証明につとめた。

２.研究の目的

市民社会諸力による条約締結型規範形成をモデルとしている、既存のグローバル市民社会による国際規範形成の理論枠組みでは、国際法規範が不在であるがゆえに合意についての遵守の不確実性がより高い事例や、遵守の履行について常時世界中の市民社会によるモニタリングを必要とするような条約締結を伴わない規範形成にかんする説明がきわめて困難である。また、締結間近の条約等の規範ならびに合意阻止規範のような競合的な対抗規範形成の理論化についても、まだ研究に乏しい。したがって本研究では既存の社会運動論研究が暗黙のうちに想定している国内類推の陥穽から免れることにくわえ、グローバル市民社会によるグローバル・ジャスティス運動を反映した国際規範形成の理論枠組みを明らかにすることを目的とした。

３.研究の方法

研究目的を達成するための具体的な研究計画と方法としては 2 年計画で、おもに一次資料の収集と聞き取り調査を組み合わせてフィールド調査を行うことで研究目的であるグローバル市民社会の世界政治における役割について、社会正義を掲げるグローバル・ジャスティス運動の担い手としてのキリスト教界、なかでもカトリック教会の動態を把握するとともに類縁集団ベースでのグローバル・ジャスティス運動が世界政治における国際規範形成と国際協調にどのような影響を与えたのかを明らかにした。まず、初年度の平成 22 年度では既存の NGO ならびにカトリック教会内部でのグローバル・ジャスティス運動の機運とメカニズムについて、さらに平成 23 年度には、オキュパイ・ウォールストリートも含めこんにちの縁集団を中心とした近年のグローバル・ジャスティス運動の動態把握に努めた。

４.研究成果

グローバル市民社会論とグローバル・ジャスティス運動の理論と進展について、既存の NGO ならびにカトリック教会内部でのグローバル・ジャスティス運動の機運とメカニズムを把握すべく調査等を行い、多くの成果を上げた。一次資料の収集と聞き取り調査を組み合わせたフィールド調査の対象として、本研究の特色の一つであるグローバル・ジャスティス運動の担い手たるグローバル市民社会としてのキリスト教界の動態を把握すべく、とくにローマ・カトリック教会による社会正義への取り組みを明らかにするために、本年度はヴァチカン市国のローマ法王庁にて、それらに中心的な役割を果たしたナイジェリア出身のフランシス・アリンゼ司教枢機卿(Cardinal Francis A. Arinze)をはじめ、教皇直属の評議会である開発援助促進評議会(Cor Unum)、正義と平和評議会、諸宗教対話評議会の各責任者ならびに担

当者への調査と資料収集に成功した。

とくにカトリックの宗教組織による開発援助のメカニズムについて、その原点となったビアフラ紛争下での人道支援の背景から現在までの重債務救済と人道支援への歴史的文脈を明らかにするとともに、既存の開発型 NGO が陥りがちだった運営資金問題を回避する知見を獲得した。

さらに、ヴェネチアビエンナーレでの「アラブの春」を題材とし本人もタハリール広場で狙撃兵によって殺害された美術家アーマッド・バショーニーによる政治表現をめぐるワークショップならびに、オキュパイ・ウォールストリートのフィールドワークでのグローバル・ジャスティス運動の機運とメカニズムを把握すべく調査等を行い、多くの成果を上げた。

本研究の特色の一つであるグローバル・ジャスティス運動の担い手たる類縁集団ベースでの、インターネット上の SNS を最大限有効活用した今日の社会運動（申請者は「社会運動のクラウド化」と定義した）を把握すべく、とくにオキュパイ・ウォールストリートの運営と組織構造、そしてそれらが掲げるグローバル・ジャスティス運動への取り組みを明らかにするために、本年度はそれらの参与観察により組織化のメカニズムについて、社会運動のクラウド化によって可能になった政治表現にかんする知見を獲得した。また多くの学会で報告を行う機会を得たとともに、グローバル・ジャスティス運動による国際規範形成の影響力と多様な性質をとらえつつ類縁集団と非暴力直接行動による政治への接続について理論化した論文と図書の刊行に成功し、研究計画以上の成果を上げた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

① Ikuo GONOI、Japan tumler med normaliteten、Information（デンマーク）、14. marts 2012、side 4 i 2. sektion

② 五野井郁夫　シティズンシップとグローバルな倫理:当事者概念による歓待の政治をめぐって、平和研究、査読有、36 巻、2011、pp.99-115

③ 五野井郁夫　来るべき公共性に向けて、図書新聞、査読なし、3003 号、2011、p. 5

④ 五野井郁夫　〈帝国〉から蜂起へ：革命なき時代における政治思想の可能性を探る、Int'lecowk――国際経済労働研究、査読有り、1007 巻、2011、pp. 29-31

⑤ 五野井郁夫　この絶望的な世界のなかで連帯の希望を紡ぐこと、図書新聞、査読なし、3035 巻、2011、p.6

〔学会発表〕（計６件）

① 五野井郁夫　文化の地政学:環大西洋世界における文化の往還と「非-場所」をめぐって、日本政治学会　2011 年 10 月 9 日　岡山大学

② Ikuo GONOI, Creating super common against privatization: The case of the Miyashita Park in Shibuya, Tokyo, Third Global Conference on Economic Geography 2011　2011 年 6 月 29 日 COEX, Seoul, Korea

③ Ikuo GONOI, The World's End：The Cognitive Turn from "Sekai" to "Shakai"Conference on Emergent Politics　2011 年 6 月 12 日 Temple University

④ 五野井郁夫　グローバル・ジャスティス運動の理論と課題、日本平和学会 2010 年 12 月 6 日　早稲田大学

⑤ IKUO GONOI, Third Wave of New Social Movement and Transnormative Culture, The Anthropology of Japan in Japan　2010 年 11 月 6 日 Temple University

⑥ 五野井郁夫　セカイからシャカイへ:再魔術化された〈日常〉と新たな社会的紐帯の発見、カルチュラルタイフーン 2010 年 7 月 4 日　駒澤大学

〔図書〕（計７件）

① 五野井郁夫、NHK 出版、「デモ」とは何か、2012、1-216 頁

② 宇野重規・山崎望・井上彰編、ナカニシヤ出版、実践する政治哲学、2012、206-236 頁
③ 小田川大典・五野井郁夫・高椅良輔編、ナカニシヤ出版、国際政治哲学、2011、155-182 頁
④ 土佐弘之編、人文書院、グローバル政治理論、2011、118-124,193-199 頁
⑤ 齋藤純一編、風行社、政治の発見 3 支える 連帯と再分配の政治学、2011、133-169 頁
⑥ 中野剛志編、ナカニシヤ出版、成長なき時代の「国家」を構想する ―経済政策のオルタナティヴ・ヴィジョン―、2010、328-346 頁
⑦ 雨宮処凛編、角川学芸出版、反撃カルチャー ：プレカリアートの豊かな世界、2010、137-150 頁

〔その他〕
ホームページ等
リサーチマップ
http://researchmap.jp/read0143842

６．研究組織
(1)研究代表者
五野井　郁夫（GONOI IKUO）
立教大学・法学部・助教
研究者番号：50586310

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし